校歌

作詞　寺田　彰司
曲　旧制一高寮歌「アムール川」

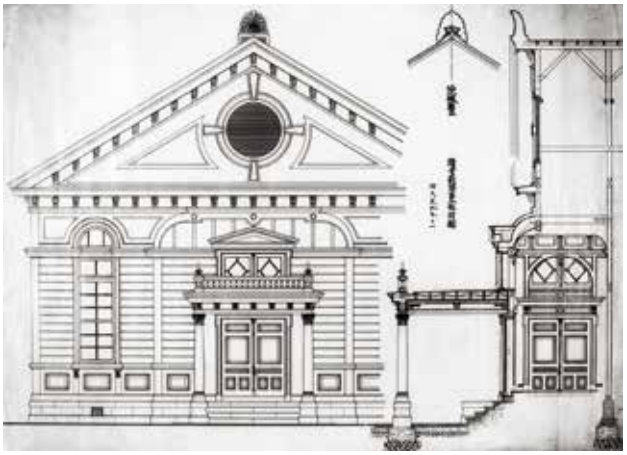
一　千秋の雪積もりたる
富士の高嶺の雄姿ぞ
幾万代の後までも
変わらぬ誠の鑑なる

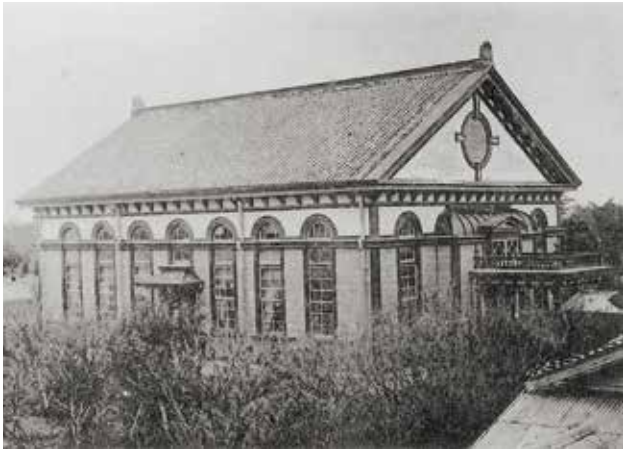
二　奔流百里石をかみ
巌に激しいや増しに
勢加わる利根の水
これ剛健のためしなり

三　あゝ此の山と此の川と
日夕眺むる健男児
自然の示す巨人をば
如何に学ばん習わなん

四　白幡台の雪月花
四季の折々常総の
平野にしるく輝くは
高潔無垢の別天地

五　石段登る六十余
一足ごとに踏みかため
心を鍛え身を練りて
忠良有為の基たてん


講堂設計図（竜一所蔵）


竜一講堂

太田一講堂内観

太田一講堂外観

目次

会長挨拶……2
令和6年度総会報告……3
令和7年度総会案内……5
恩師を訪ねて……6
同窓会便り……7
母校の想い出……9
母校と私の人生……14
トピック①②③……15
各委員会報告……16
追悼……18
進路状況……20
附属中学校……21
部活動の主な成績……22
令和6年度定通大会……23
編集後記……24

「協力金」納入のお願い

会員相互の親密提携を図り、母校を後援することを目的とした同窓会事業を円滑に遂行できるように皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

「協力金」の納入方法

同封の「協力金」振込みのお願いをご参照ください。

竜ヶ崎第一高等学校内
白幡同窓会事務局
〒301-0844　龍ケ崎市平畑 248
TEL 0297-62-2146　FAX 0297-62-9830
ホームページ　http://www.shirahata.sakura.ne.jp
メールアドレス　shirahatadousoukai@gmail.com
印刷所：倉沢印刷㈱　題字：秋山海堂（中 21 回）
表紙写真：竜一高講堂（100 周年記念誌より）、太田一高講堂近景

ご挨拶

白幡同窓会長
小倉　培夫

白幡同窓会会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のことをお慶び申し上げます。

平素は本会並びに母校充実発展のため深いご理解と温かいご支援を賜り衷心より感謝申し上げます。

本会会員は二万六千余名を数えます。その方々が国内外において素晴らしい活躍をされておりますことは白幡同窓会並びに竜ヶ崎第一高校生・附属中学生が誇りとするところでございます。

令和六年四月六日（土）、竜ヶ崎第一高等学校体育館において同窓会総会が開催されました。総会は昨年同様、在校生の吹奏楽部による素晴らしい演奏と応援団及びチアリーダーからのエールで総会を盛り上げていただきました。

総会の審議・承認事項等については会報「総会報告」をご覧ください。

同窓会活動の活性化のため、校外幹事の皆様にお骨折りをいただいております。

同窓会活動は、会報編集、HP運営、白龍祭、企画の四つの委員会を中心に行っています。お陰様で各委員会は年々充実しています。

本会は文武両道にわたって、関東、全国大会に出場する生徒に対して「奨励金」を贈呈しています。今年も私が代表し、壮行会で贈呈してまいりました。

その際、廊下などですれ違うほとんどの生徒が意識して挨拶をしてくれます。顔を合わせなくても背中から挨拶をしてくれる生徒、わざわざ立ち止まって挨拶をしてくれる生徒もいます。また、大きな声で校歌を歌う姿にいつも感動します。

毎年十二月に発行しています会報の発送の際には、同窓生の皆様に「協力金」をお願いしております。昨年度は皆様の母校発展の熱い思いから千四百六十名の方々から協力金をお受けいたし母校支援と同窓会活動のために活用いたしております。協力金をいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

母校におかれましては、創立以来の文武両道の校是、「誠実」「剛健」「高潔」「協和」の校訓、「問う力」の一歩先へ、多様な学び場で想像力を育む、しなやかで強い個を育てる等の教育目標の下、各分野で活発な活動を展開しています。

「温故知新」これは私の座右の銘（武道関係）です。未来は学べないが、過去は学べるという知恵が出ます。（未来の事態を知りたいのなら過去のいきさつを考察すべし）この言葉に惹かれます。そして「竜ヶ崎一高の根底に流れる不易なもの」とは何かを自問する契機になりました。

今、私たちは、科学技術発展の中で便利さに慣れ過ぎています。物質的豊かさの中で困苦欠乏に耐える力が弱くなっています。高齢化や核家族の中で親子関係の情などにも変化をきたしているようです。これからの社会は、変化の多い不透明な厳しい時代になると言われています。何が起こるか分かりません。思いもしないことが起こるかも知れません。しかし、時代が大きく変化しても変わらない本質的なものがあります。

本同窓会は「竜ヶ崎一高の根底に流れる不易なもの」を引き継ぎ、次世代に承継する責務があります。皆様の尚一層のご尽力をお願い申し上げます。

結びに「心を鍛え　身を練りて　忠良有為の基たてん」これは校歌の五番の最後の歌詞です。この伝統の下、今日まで素晴らしい歴史を刻んでこられた皆様の献身的なご努力に深く敬意を表し「竜一高」「白幡同窓会」がさらなる充実・発展することをご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

人づくりはまちづくり

校長
太田垣　淳一

平素より学校運営に格別のご理解、ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。今年度も竜一は、国際標準の文理融合型学習と最先端のデジタル教育で共にSSH指定を受けるなど、国内中等教育のフロンティアに貪欲に挑戦しています。

さて、みなさまは「成瀬は天下を取りにいく」というベストセラーをご存じでしょうか。琵琶湖畔の西武大津店の閉店をモチーフに、地方都市の中高生の日常と成長を描いた秀作です。ただしその内容が、イトーヨーカ堂竜ヶ崎店の現状と重なり、胸に痛みを覚える方がおられるかもしれません。私もその一人です。行政や財界、コミュニティリーダーとして卒業生が地域社会を牽引し、代々卒業生という方も少なくない地域密着型の本校にあって、若者の地域離れを加速し、世代間の連鎖を脆くしかねない動きに対しては、敏感にならざるを得ません。

超成熟社会と言われる日本にとって、社会課題の解決を担う若者の育成は喫緊の課題です。そのため、本校でも教科知識を実践知に接続する探究学習に力を入れてきました。校外連携に行き詰まり、形だけで済ませる学校が多い中、本校で探究中心の学びが成立しているのは、首都圏への手ごろなアクセスと、地域のみなさまの手厚い支援が共

に得られる、絶妙な「トカイナカ」の利に拠るものです。アイドルから動物園まで、「触れ合える」ことが価値とされるコト型社会の中、おかげさまで地域には中高生が「触れ合える」純正の教育資源があふれています。先日も関東鉄道様の厚意で附属中生が入地駅で合格祈願イベントを開催しましたが、ここまで真正性を究めた探究学習は、例えば山手線内の学校では到底実現し得ないものです。

こうした稀有な機会を生かすためにも、地域・行政のみなさまには生徒を企画過程に交えていただくようお願いしています。従来の若者の社会参画といえばイベントの彩り程度でしたが、現在では環境にせよまちづくりにせよ、将来的に影響を被る若者を政策設計に積極的に巻き込むことが求められています。加えて、生き方や価値観が多様化し、テクノロジーによる変革が相次ぐ現代では、大人の年輪が最善手につながるとは限りません。SNSのような新興の領域に至っては言うまでもありません。

企画の一部を若者に委ね、私たち大人も支えながら共に成長する。そうして地域が若者にとって「自分ごと」になれば、商業施設が失われても世代のバトンはつながります。学校教育とまちづくりが重なり合うことで、若者の飛躍的な成長と活躍の場づくり、地域の持続可能な発展が同時に満たされるような理想像を、竜一の探究学習は目指しています。

冒頭で触れた「成瀬は…」の主人公、成瀬あかりは「将来、わたしが大津にデパートを建てる」と豪語します。自らの生きる場所を自ら作ろうとする強い主体性を持った「竜一の成瀬」を、みなさまと共に育んでいきたく存じます。引き続きみなさまのご支援とご協力を、心よりお願い申し上げます。

みなさまの知識・経験で母校をご支援ください

少子化による学校の規模縮小等が相次ぐ中、本校では地域と一体になった先端的な探究活動（SSH指定）を核に、魅力ある学校づくりを進めています。本校のさらなる発展のため、卒業生のみなさまのご支援をお願いします。経済、国際、デジタル、環境といった領域について、文理問わず知識や経験をお持ちのみなさま、または生徒と共に活動を盛り上げていただけるみなさまは、ぜひ左記よりご登録をお願いします。

【竜一スキル・データベース】

https://forms.gle/nMiXAXGvsqX27VmJ9

総会報告

令和六年度の白幡同窓会総会は、令和六年四月六日、竜ヶ崎一高体育館で開催されました。恒例の応援団・チアリーダーによる校歌・応援歌斉唱、吹奏楽部の演奏披露で始まり、総会を盛り上げました。また、会報読者プレゼント贈呈、総会出席者プレゼント抽選では、写真集「牛久沼」や校章入り白萩釉鎬湯呑みが当選者に贈られました。花曇りの午後でしたが、百四名の卒業生にお集まり頂き、盛会となりました。総会次第は次のとおりです。

一　開会の言葉
二　校歌・応援歌斉唱
三　吹奏楽部の演奏
四　会長挨拶
五　校長挨拶
六　記念品贈呈
七　招待学年代表挨拶
八　会報読者プレゼント贈呈
九　総会出席者湯呑抽選及び贈呈
十　総会出席者写真集抽選及び贈呈
十一　新任者紹介
十二　議事
　㈠令和五年度事業報告・決算報告
　㈡令和五年度会計監査報告
　㈢令和六年度事業計画案・予算案
　㈣学校現況報告
十三　閉会の言葉

【本部役員】
会長　小倉　培夫（高20）
副会長　関口　広行（高26）
　　倉持　正男（高27）
　　大和佐知雄（高28）
　　有川　保（高33）
監事　山田　實（高26）
　　赤塚　誠（高30）
顧問　齋藤　佳郎（高8）

【校外幹事】
幹事長　山崎　睦（高31）
副幹事長　櫻井　篤美（高29）
幹事　服部　俊夫（高25）
　　篠塚　文男（高28）
　　川口　浩己（高29）
　　大野　雅之（高30）
　　羽成　邦男（高30）
　　大野　雅彦（高31）
　　小嶋　吉浩（高31）
　　福田　道義（高31）
　　本田　仁子（高31）
　　岡田　晋（高32）
　　宮本　順紀（高32）
　　霜村　裕通（高33）
　　武田　早苗（高33）
　　磯山　佳美（高34）
　　大野　金人（高35）
　　坪井　龍夫（高35）
　　福島　正明（高35）
　　海田磨起代（高36）
　　松本　光弘（高36）
　　岩﨑　卓士（高37）
　　菊地　耕（高37）

【校内幹事】
幹事長　村上　潤（高36）
　　17名

令和５年度　白幡同窓会収支決算書

収入総額　8,160,966 円
支出総額　6,044,459 円
差引残額　2,116,507 円（次年度へ繰越）

（収入の部）　（単位：円）

科　目	本年度予算額	本年度決算額	比較 増	比較 減	摘　要
1 繰越金	3,435,945	3,435,945			令和４年度より繰越 会計用　3,435,945円 常陽銀行（普）
2 入会金	1,482,000	1,464,000		18,000	全日制 6,000円×231名＝1,386,000円 定時制 6,000円×（4+9）名＝78,000円
3 協力金	2,400,000	3,016,000	616,000		ゆうちょ銀行扱い分 302件　700,000円 コンビニエンスストア入金分 1158件　2,316,000円
4 雑収入	55	245,021	244,966		普通預金利息　21円 過年度協力金　174,000円 寄付金　48,000円 ポロシャツ売上　23,000円
合　計	7,318,000	8,160,966	842,966		

（支出の部）

科　目	本年度予算額	本年度決算額	比較 増	比較 減	摘　要
1 事務費	1,200,000	837,389		362,611	
1 消耗品費	50,000	77,689	27,689		白龍祭参加企画費，旧制服寄付者謝礼，文庫本
2 支払手数料	280,000	306,131	26,131		郵便局支払手数料 53,813 円 サラト扱い手数料 227,964 円
3 印刷通信費	500,000	335,331		164,669	同窓会通信切手，葉書代
4 広報費	170,000	5,238		164,762	ホームページ用運用諸費
5 旅費交通費	200,000	113,000		87,000	役員会・委員会交通費等
2 事業費	4,920,000	4,654,368		265,632	
1 総会費	150,000	35,004		114,996	総会出席者用バッグ，総会経費補助
2 会報発行費	3,000,000	3,277,422	277,422		会報 35 号印刷代 881,320 円 会報郵送代 2,396,102 円
3 会議費	170,000	115,012		54,988	役員会等経費
4 招待学年記念品費	0	0			
5 卒業記念品費	200,000	211,120	11,120		卒業証書ファイル購入代
6 部活動奨励金等	900,000	805,000		95,000	※ 20,000 円 +5,000 円 × 出場人数（10 万円限度） 関東（ソフトテニス，射撃，弓道，陸上，吹奏楽，軽音楽，水泳） 全国（書道，射撃，放送） 世界（ロボットチーム）
7 学校行事補助	300,000	10,810		289,190	SSH 関連事業経費
8 国際交流基金	200,000	200,000			国際交流基金
3 慶弔費	100,000	16,500		83,500	葬儀生花
4 基金積立金	500,000	0		500,000	
5 予備費	598,000	536,202		61,798	制服展示ケース，ポロシャツ，招待学年懇親会補助
合　計	7,318,000	6,044,459	△ 1,273,541		

科目間の流用を認める
　基金積立金（常陽銀行）　５年度末積立額　6,003,613円
　　合　　計　6,003,613円

上記のとおり報告いたします。
　　決算報告日　令和６年３月17日
　　茨城県立竜ヶ崎第一高等学校　白幡同窓会長　小倉　培夫

監　査　書

令和５年度収支決算について，監査しましたところ証拠書類，通帳等すべてにおいて正確にして適正であることを認めます。
　　令和６年３月17日　監事　山田　　寛　㊞
　　監事　赤塚　　誠　㊞

令和６年度　白幡同窓会予算書（案）

収入総額　6,321,000 円
支出総額　6,321,000 円

（収入の部）　（単位：円）

科　目	本年度予算額	前年度予算額	比較 増	比較 減	摘　要
1 繰越金	2,116,507	3,435,945		1,319,438	令和５年度より繰越 内訳　会計用　2,116,507円 常陽銀行（普）
2 入会金	1,404,000	1,482,000		78,000	全日制 6,000円×228名＝1,368,000円 定時制 6,000円×（4＋2）名＝36,000円
3 協力金	2,800,000	2,400,000	400,000		協力金 2,000円×1,400名＝2,800,000円
4 雑収入	493	55	438		預金利息等
合　計	6,321,000	7,318,000	△ 997,000		

（支出の部）

科　目	本年度予算額	前年度予算額	比較 増	比較 減	摘　要
1 事務費	950,000	1,200,000		250,000	
1 消耗品費	50,000	50,000			事務用品，定期残高証明書代
2 支払手数料	300,000	280,000	20,000		協力金振込手数料
3 印刷通信費	450,000	500,000		50,000	切手・葉書購入，印刷代等
4 広報費	50,000	170,000		120,000	ホームページ用運用諸費
5 旅費交通費	100,000	200,000		100,000	役員会交通費等
2 事業費	4,750,000	4,920,000		170,000	
1 総会費	100,000	150,000		50,000	総会経費補助
2 会報発行費	2,900,000	3,000,000		100,000	会報36号発行印刷，発送料
3 会議費	150,000	170,000		20,000	役員会等経費
4 招待学年記念品費	0	0			
5 卒業記念品費	200,000	200,000			卒業記念品代（卒業証書ファイル）
6 部活動奨励金等	900,000	900,000			部活動奨励金等
7 学校行事補助	300,000	300,000			SSH関連事業経費，高大連携経費等
8 国際交流基金	200,000	200,000			国際交流補助
3 慶弔費	50,000	100,000		50,000	弔慰金等
4 基金積立金	500,000	500,000			創立130周年式典に向けての積立
5 予備費	71,000	598,000		527,000	同窓会招待学年懇親会補助金
合　計	6,321,000	7,318,000	△ 997,000		

科目間の流用を承認願います。

上記のとおり提案いたします。
　　令和６年３月１７日

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校　白幡同窓会会長

令和７年度　同窓会総会のご案内

令和７年度　白幡同窓会総会

1　日時　　令和７年４月５日（土）　午後２時　開会予定
2　場所　　茨城県立竜ヶ崎第一高等学校　体育館

令和７年度の総会については、４月５日（土）午後２時から竜一高体育館にて開催する予定です。

今回ご案内の往復葉書を差し上げるのは、各卒業回の幹事の方々と、令和７年度の招待学年である高校 18 回・28 回・43 回・58 回・68 回及び定時制 14 回・24 回・39 回・54 回・64 回の卒業生全員になります。

総会の案内が届かない同窓生の皆様は下記の QR コードまたは URL から参加申し込みができます。

同窓会総会参加申し込みフォームのＵＲＬ　　https://forms.gle/S8Q3ZpmmeY2YEQju5

◎申込締め切り　　令和７年２月 28 日（金）

そのほかに、下記白幡同窓会メールアドレスまたは、竜一高への電話でも申し込みができます。

オリジナル校章入りの「白萩釉鎬湯呑」の贈呈

招待学年の出席者の方と 70 歳以上の出席者の方（１回限り）には、陶芸家･植竹敏氏（高 27 回）作製のオリジナル校章入りの「白萩釉鎬湯呑」を記念品として贈呈いたします。

なお、総会に出席された 80 歳以上の同窓生の方には、もれなくオリジナル校章入りの「白萩釉鎬湯呑」を記念品として贈呈いたします。

また、招待学年以外の出席者を対象に、抽選で３名の方に上記湯呑を贈呈する企画がありますので是非総会にご参加ください。

同　窓　会　懇　親　会

新型コロナウイルス感染拡大前に開催していました総会の後の「同窓会懇親会」につきましては実施しないことになりました。

それに代わって、「招待学年単独による懇親会」を開催する場合については、同窓会本部より３万円の補助金を１回に限り、給付することになりました。

なお、日時及び場所等については招待学年幹事等で決めていただき、同窓会本部（下記メール）にご連絡ください。同窓会役員１名がその懇親会に参加させていただきます。

◎上記のことについて、ご不明な点があれば下記にご連絡ください。

白幡同窓会メールアドレス　shirahatadousoukai@gmail.com

恩師を訪ねて

富永道也先生

思い出深い先生を訪ねる企画の第二回目は、富永道也先生です。富永先生といえば、一人一人に向けてくださる視線と言葉こそが、先生からの恩恵だと感じる卒業生が多いのではないでしょうか。

暑さが残る秋の昼さがり、八十三歳になられた富永先生にお話を伺いました。これまでの道のり、大切な人々との出会い、竜一や教え子たちへの想いなどを聞かせていただきました。

富永道也先生のプロフィール

１９４１年土浦市に誕生。4歳の時、転居先の阿見町で終戦を迎えます。中学校からは土浦に通学し、土浦一高では担任大竹勉先生（旧制龍中44回）と出会い、大きな影響を受けました。後年大竹先生の母校で教鞭をとるという深い縁を感じたとのことでした。

大学在学中からの学習塾アルバイトの経験を通して、子供と向き合うことの面白さを感じ、教育がご自身の天職だと意識されました。茨城に戻り、谷田部高校にて国語教諭としてスタート。29歳の時に竜一に赴任。その後の10年間を、確固たる熱い想いと溢れるエネルギーで竜一生の成長をサポートしてくださいました。コート作りから取り組んだテニス部は、在職中に県大会優勝やインターハイ個人進出の成果を残しました。

その後は、土浦第一高校、総和工業高校校長、取手松陽高校校長と、県の教育に尽力され、退職後は流通経済大学にて参与も務められました。スポーツはテニスとゴルフ。現在は、川柳を趣味とされ、教え子、友人、地域の中でお元気に過ごしていらっしゃいます。

恩師からのリレー

インタビューで印象的であったのは、優しい眼差しであった恩師大竹勉先生との数々のエピソードです。「誰か『故郷の人々』の歌を知っている人はいるか」ある日の英語の授業中大竹先生のこの問いかけに、手を挙げた富永先生。「歌い終えた教室。学友の拍手。中学から親元を離れて過ごしてきた心が、初めて緩みほぐれた瞬間だった。」純粋な心が富永先生の全ての原点であることを感じました。

以下、インタビューでのお話を二つ記します。「子供を立場や型にはめるな。物事には根っこがある。教育は人が人を教えること。一人の人間として生徒と話ができるのか、それが相手に伝わるのか。」「高校時代は自分探しと友達探し。良いことも悪いことも言い合える関係が友達。」

（文　中島　千絵）

富永先生の川柳「高校青春」

学園祭この生物のエネルギー

群れている羊にだって別な顔

失敗の数だけ育ち卒業日

クラス会みんな十五の顔になる

富永先生を囲んだ日

令和六年初夏、霞ヶ浦ヨットハーバー近くの会場で、竜一高第三十一回卒業生が集まりました。「何もかもお見通し」といったような鋭い観察眼を持った富永先生と、心地よい仲間。総勢二十一名、久しぶりの再会です。

四十五年という長い時が経ちましたが、ありのままの自分、その人らしさを受け入れてくれる当時からの雰囲気は何ひとつ変わっていません。

今でこそ「多様性」が大切にされる時代になりましたが、竜一はその当時から「多様性」を大切にする、数少ない魅力ある高校の一つだったように思います。それはまさに担任の先生からも感じられることでした。富永先生は決して他と比べることなく、その生徒の本質を見抜き、本当に大切にしてくださっていたと思います。だからこそ、多感な時期の私達も、ありのままにのびのびと学校生活を過ごすことができたのだとしみじみと感じます。

二次会は富永先生を誘ってカラオケに。富永先生が歌われたビリーバンバンの「白いブランコ」のハモリには、その場にいた誰もが痺れてしまいました。この日は、母校愛をさらに深める特別な日となりました。

（文　永野　世津子）

同窓会便り

高校第十七回

傘寿祝いは十七回同窓会で！

今年四月、白幡同窓会の令和六年度総会が開催されたおりに我々十七回生は招待されました。最高齢学年でした。

我々の殆んどは六十年ぶりに母校の門を潜ると、校舎は近代的になり、歴史的建造物であった講堂も過去のものとなり、全く新しい世界になっていました。校訓も当時は「誠実、高潔、協和」であり体育祭もこの三団体で三つ巴戦を行いましたが、現在は「剛健」が追加されより逞しく感じました。

在校生の楽器の演奏や応援団やチアガールの気合の入った歓迎等、素晴らしかったです。

また、在校生は我々と出会う度に「こんにちは！」と明るく挨拶して下さり非常に嬉しく思いました。丁度60年前の自分の年齢の高校生が、そこにいました。今の私の人生の原点はスポーツに勉学に懸命に燃えた、正にこの場所に青春の一頁があったと再認識致しました。

覇気ある演出に誘発されその日のうちに七月六日の地区同窓会開催を決定したのでした。当日は常磐線沿線の同窓生十九名の参加にて「傘寿の同窓会は全体に呼び掛けよう」等、活気ある意見も出ました。年月を乗り越えた自信らしさを感じました。

我々は昭和21か22年生まれで「戦争を知らない子供たち」の一期生です。終戦の翌年なので世間には戦争の傷痕がいっぱいありましたが、国民は皆、日本の復興と豊かさを求めて高度成長社会実現に頑張りました。我々が高校三年生の時に東京オリンピック（1964）が開催され三年先輩の岡野功さんが柔道中量級で見事金メダルを獲得し校内は勿論、日本国中喜びと興奮に溢れました。東海道新幹線の開通、カラーテレビの普及もこの頃でした。

母校は親にも似た心の拠り所であります。「全十七回同窓会で傘寿祝いをする」を合言葉に致しましょう。

高17回卒傘寿同窓会の開催

2025年7月5日（土）に決定。場所時間は未定。詳細は決定次第、白幡同窓会HPでお知らせ致します。

（吉田　亨）

高校第二十五回

～古希同窓会～

昭和48年3月に卒業してから、まもなく52年が経過しようとしています。私たち第25回卒業生も70歳を迎える歳となり、令和6年10月27日（日）午後5時30分から牛久シャトーレストランを会場に「古希同窓会」を62名（うち女性16名）の参加で開催しました。

集合写真は、シャトーの中庭での撮影です。小雨がちらつく中で、しかもこの季節の午後5時過ぎは日も落ち暗い中での撮影でした。同窓生の石引写真館の腕の見せ所です。条件の悪い中での撮影でしたが、とても良く撮れています。さすが石引写真館です。

いよいよ懇親会の始まりです。座るテーブルは、くじ引きで決めました。以前の同窓会ではクラスごとのテーブルでしたが、クラスごとの出席者数にバラツキもあり、「誰と一緒の席になるのかな」とわくわくさせるという意味合いもありました。

お酒を酌み交わしながら、共に過ごした青春時代の話や、老いた現在の近況報告など話題は尽きません。宴会が2時間では、ちょっと時間が足りなかったかなとの思いもありました。久々に会った友人、卒業以来で再会した同窓生、様々な出会いと楽しそうに旧交を温める姿を見ていると、同窓会を開催してよかったとしみじみ思いました。

宴会の中程でのビンゴゲームで大いに盛り上がり、終了間際には全員で校歌を合唱しました。校歌は何年たっても忘れないものです。

第25回卒業生は50歳の時、第1回目の同窓会を開催してから、5年ごとに開催してきました。今回が5回目となります。実行委員は毎回変わります。5年後の75歳の年にまた開催される予定ですので、もっと多くの同窓生と再会できることを願い、別れを惜しみながら帰路につきました。

（吉田　次男）

高校第二十七回

令和6年8月11日、コロナ禍により開催が延び延びになっていた同窓会を5年ぶりに、牛久市の牛久シャトーで開催しました。牛久シャトーの名は知られていますが、なかなか入る機会が少なく重要文化財の一部である本館を近くで見る事も良いかと思い企画をしました。

前々回から、A組から順に幹事を回すことになり、今回3回目で我がC組が主催し総勢55名がタイムマシンに乗って来られました。

受付時にネームラベルを貼ってもらい、その間『誰…誰…？』という声があちこちから聞こえてきました。そして、名前を見ながらバック・トゥ・ザ・フューチャー・・・。

集合写真を撮りいざ会場へと移動。本館をバックにチーズ・・・。

会場に移動し、いよいよ同窓会の開始。卒業からおよそ半世紀が経ち、卒業以来の人や久しぶりに会った人などタイムスリップして18歳に戻っていました。

時間の経過とともに記憶がよみがえり昔話に花が咲き、連絡先を交換したりと。

立食形式なので、移動しながらいろいろな話の輪に加わり当時の想い出を語りながら、会う約束をしたり、また次回の同窓会で会おう・・・等と話題の尽きない時間が経過しました。

しかし、現実の年齢には逆らえず、椅子に座るグループが多くなり立食しながらの姿の少ないこと。

あっという間に予定時間が経過し、次回の幹事をD組に引継ぎ、名残惜しみながら散会。

無事タイムマシンが帰還し、昭和から令和の現実に戻りました。

今回、参加してくれた皆さん、都合で参加できなかった皆さん、次回の同窓会で。

タイムマシンの乗車券が来るのをお楽しみに!!

SEE YOU AGAIN・・・

（石塚　伸也）

高校第三十九回

総勢119名参加
第39回卒　大同窓会

去る令和6年10月5日、東京・田町を会場に、卒業から38年、56歳となった第39回卒同窓会が開催されました。数年前の白幡同窓会（招待学年）で集まった十数人が契機となり、そこから卒業以来の大同窓会の夢を膨らませました。ここ、大事ですね、ワクワク感。その後人づてに連絡を取り合い、ミニ同窓会を重ね各クラス幹事選出、そこからはもう～大変な勢いで「一人ももれなく！」との想いで、SNSやウェブサイト、ご実家や職場訪問等あらゆる手が尽くされ、お一人、お一人と繋がり、これがまた幹事達としては喜びでした。

同級生200名と繋がる

最終的に卒業生の9割以上と連絡が取れ、内200名程が学年全体やクラス毎のグループLINEで繋がりました。

会当日は国内各地と海外からも駆けつけた懐かしい同窓生115名に、恩師南畝清志先生・酒井義博先生・臼井健司先生、同窓会からも有川保副会長にご参加いただきました。午後1時からの一次会、5時からの二次会、その後三次会四次会と、とにかく時間が足らず。次回の新たな幹事も選出され、4年後の還暦祝いでの再結集を約束し合いました。

（金子　恒一）

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校　第39期生同窓会　令和6年10月5日

母校の想い出

遅すぎた陳謝

高18回
加納　治夫

1年生、2年生と連続して担任は古山早苗先生であった。先生は私を気に懸けて下さり、数ヶ月に一度は職員室に呼び出し、家庭での勉強の様子を聞いて下さった。家では少しも勉強していないと言うと「それでは駄目だ」とコンコンと説諭して下さった。私は進学希望など言い出せる家庭環境ではなかったので、毎回反抗的な態度で対応することになり、気まずい雰囲気で職員室を後にするのが常であった。3年生になり、先生が私の担任でなくなる迄続いた。

実のところ、十歳で結核の一歩手前と言われる肺浸潤を患い、2ヶ月半の寝たきり生活を余儀なくされた虚弱児が、やっと普通の身体に戻って来たばかりなのだ。剣道の稽古を終えて自宅に帰り着く頃にはエネルギータンクは空っぽで、勉強する気力も体力も残っていなかった。

入学時、剣道部に入部した1年生は8名であったが、9月になると私と杉山正男の二人になっていた。

これ以降、私の心に葛藤が生じる。「退部して勉強に励めばまだ間に合う、ひょっとして事態が開けるかもしれない」という思い。一方では、「杉山一人に責任を押し付けて退部できるか？男ならできないだろう！」という思い。両者がぶつかり合う。膝も壊れた。一学年上には秋の新人戦で優勝し、翌年にはインターハイ出場を勝ち取った猛者が9人もいた。先輩との確執もあった。この先輩達が抜けた後は私と杉山で部を支えるしかないのだ。腹の中にはタールのようなものが沈澱している、そんな気分の毎日であった。

結局辞められず、秋の新人戦では県3位になったものの、残されたのは1・2年生合わせて7名で選手層の薄さは致命的な弱点であった。

3年生になると、1年生が大挙して入部してきた。初心者も経験者も筋が良い。彼らを鍛えればインターハイも夢では無いと思われた。希望が見えた気がした。厳しくシゴイた。只々強くなって欲しいとの一念であった。この中には小倉培夫現同窓会長もおられた。

自分達の事はどうでも良かった。私と杉山にとっての最後の大会はあっさりと敗退した。前年度優勝校の竜一高は優勝旗の返還に行ったようなものであったし、一年生には大変な口惜しさが心に残ったのでは無かろうか。その口惜しさがバネになったか、2年後のインターハイは「紙一重の差で及ばなかったものの稀に見る接戦であった」と伝え聞いた。心の中で称賛した。

卒業後、合宿の手伝いに行くと佐藤至良部長先生が新入部員達に「あの古山先生が期待した加納だ」と紹介して下さった。「あの」がどういう意味かは不明であったが、やはり先生は私を何とか一人前にしたかったのだと改めて思った。先生のお気持ちに心を開かず、頑なに反発し続けた自分が恥ずかしかった。今になってようやく素直に「先生有難うございました。そして若い日の無礼をお許しください」と言える。六十年後の遅すぎた陳謝・・・。

また、別の日に母校を訪れると、南畝清志先生とばったりとお会いした。先生は「加納！まるくなったなー」と言葉をかけて下さった。先生には世界史のご教授を頂いたが、私のような者でも授業以外で見ていて下さったのだなと思うと嬉しかった。在校中の、葛藤のある、殺気立った雰囲気が卒業を機として吹っ切れたのかなと思ったりした。

期せずして原稿依頼があり、改めて竜一高時代を振返る時間を持てた。書きたい事は思ったよりも沢山あって、体育祭の仮装行列や卒業文集発行のこと、野球応援のことetc。自分では苦虫を噛み潰したような3年間だと思っていたのだが、割と楽しいこともあったのだと改めて気づかされた。編集委員会の皆様には深く感謝申し上げます。

高18回
北澤　寛治

竜一高を1966年に卒業し、今年は同級生の多くが喜寿を迎えることになる。時の流れをしみじみと感じる次第である。

今回同窓会会報「白幡」への寄稿文執筆依頼を受け、この会報に掲載されている卒業生の思い出話を読んでみたが、ほとんどの寄稿者がいろいろと竜一高時代の思い出を明確に回顧して書いていることにつくづくと感心させられた。これに対して、自分はどういう高校時代を送ったのかといろいろと記憶をたどってみたが、断片的に蘇ってくる思い出はもちろんあるものの、書くに値しないものばかりである。これは、小生の竜一高時代が学業にも部活にも青春の情熱を燃やすことのない平凡かつ怠惰な学生生活を送ったことに起因すると思う。

このような中でひとつ学業面で思い出すことを敢えてあげれば、それは、英語に不思議と興味と関心を有し、比較的力を入れて勉強したことである。毎月国語と数学、英語の実力試験があって、成績優秀者は廊下に張り出されるのであるが、自分の名前が載るよう結構エネルギーを注いだ記憶がある。しかし、英語の勉強に努力したからと言って当時海外留学するとか、国際社会で働くといった明確な目標があってのことではない。ましてや外交官になるなど想像もできなかった。

このようなことで、残念ながら竜一高の思い出を具体的に書くことができない。そこで、竜一高卒業後の小生の歩み、特に外交官となった経緯等について若干触れたい。

大学進学は一応自分の希望する大学に進学することができたものの、当時は反安保学生運動のあおりを受けて大学生活後半の2年間は全く授業のない惨憺たるものであった。大学卒業後はこれといったはっきりした人生目標もなく民間企業に就職し、1年ほど働き始めたが、そんな中で外交官になろうとした直接のきっかけは、大学時代の友人から教えてもらった外交官試験の存在と友人の海外赴任であった。これが外交官受験への強い動機付けとなったが、一方で高校時代の英語の勉強も多少なりとも背中を押してくれたと思う。早速仕事をやめ、自宅で孤軍奮闘の勉強を始めた。しかし、大学卒業後の受験勉強は大変つらいものであった。合格まで1年半を要した。

外務省に入省したのは1973年4月で約40年間勤務した。その間の約半分は海外勤務であり、国内外を行ったり来たりするジプシー生活であった。仏留学を除き勤務地は全部で6か国（コートジボワール共和国（旧象牙海岸）、モロッコ、コンゴ民主共和国（旧ザイール）、スイス（ジュネーブ）、ハイチ共和国）である。

2011年在コンゴ（民）日本国大使を最後に退官したが、外交官の職業と言えば、一見華やかなものと思われがちであるが、実際には苦労の方がはるかに多い。特に、大使は日の丸を背負って任国政府に対し外交活動をすることが主たる任務であるが、これには重い責任感を伴うことになる。コンゴ（民）では約3年半勤務したが、幸いにして我が国の外交政策の主要な柱のひとつである経済協力を通じて良好な両国関係を更に発展させることができたことは、自分の外交官人生にとって大きな財産となった。

外務省退官後、毎日新聞社企画の「母校を訪ねる」という連載記事（関東地域1都6県の有名進学校卒業生の思い出話の掲載）のために取材を受けたことがある。茨城県からは県内の有名な進学高校を差し置いて竜一高が選ばれたが、取材記者によれば、最近の竜一高の目覚ましい進学レベルの向上が主な理由であるとのことであった。今後とも竜一高の更なる学業発展を願わずには得られない。

鼓動の記憶

高18回
浅野　洋子

人生を振り返りますと母校の恩恵を受けていたと感じています。

父が旧制龍ケ崎中学校の卒業生でしたので志望校は、歴史と伝統のある憧れの竜ケ崎第一高等学校と決めていました。白い替え襟、ジャンパースカート、ボレロタイプの上衣。お気に入りの制服でした。その後長男も白幡同窓会の一員になることが出来ました。

在学中多くの先生方に指導して頂きましたが、思い出深い先生は数学の飯野知光先生。苦手な数学の授業の時にたまに余談がありホッと一息つける楽しみの一つでした。「言うまいと・思えど・今日の暑さかな」という英語の発音に似た日本語に由来する「言葉遊び」を教えて頂きまして親近感を覚えました。

次に竜ヶ崎一高の時に特に印象に残っていることは、1964年東京オリンピックで柔道の岡野功氏が金メダルを獲得したという快挙のニュースでした。我が事のように誇らしく思った最良の出来事でした。

自分自身の思い出としては、それまでマラソン経験がなかった私が中学時代に学校行事の榎ケ浦（えのき）マラソン大会で完走してしかも優勝。我ながら驚きました。高校でも毎年恒例の全校マラソン大会があり、心が高揚した行事でした。1年時はスタートの瞬間が非常に緊張しました。風を切って走り続け気持よく1位でゴールすることができ胸が高鳴りました。欣喜雀躍の心境に至り喜びをかみしめました。2年時も同様に走り続け、やはり1位でゴールして嬉しさで一杯になりました。まだ何者でもなかった私の青春時代がよみがえります。

大学卒業後は県立高校の国語科教諭として奉職しましたが、マラソンの醍醐味は忘れられず、社会人になってからも地域のマラソン大会に同僚達と参加したこともありました。

「母校の想い出」を寄稿することはとても光栄なことと感謝しております。

末筆ですが、竜ヶ崎第一高等学校と白幡同窓会の益々の御発展を祈念いたします。

「燃えよドラゴン」をもう一度！

高28回
飯田　俊明

昭和48年4月に竜ヶ崎一高に入学した。桜の咲く坂道を初めて自転車で駆け上がった時のセロトニン出まくりの解放感と達成感を今でも覚えている。中学まではマンガ「巨人の星」を見て育ち、野球一筋に取り組んで来た。ただ、チームワークが必要な団体競技に限界を感じ、自己完結する個人競技に興味が移った。

体育館を覗くと空手の稽古をしている空手同好会の先輩方が目に映った。同好会なら「俺にもやれるかも」と甘い考えで入会した。

同じ考えの同級生K君、Y君、I君も入会した。折りしもこの年封切られた映画「燃えよドラゴン」が大ヒットし、日本中が空手ブームに沸い

た。そのあおりを受け、はじめ優しかった先輩達もアドレナリン全開で豹変し、週三日だった練習が毎日になり、自由組手では、文字通り血がにじむ練習になっていった。

リーゼントが良く似合っていたキャプテンのY先輩は、蹴り技を得意としていた。その先輩の中段前蹴りを左下腹部にもらい、HANG TENのマークの様な青あざが残った。恐怖や痛さと戦いながらやっと先輩達が卒業する時期を迎えた。「我が世の春はもう少し。」と思ったのも束の間、グローブのような拳をした師範代の先生K氏が指導に来るようになり、週末には流経大の大学生と一緒に練習することもあった。練習後の唯一の楽しみは、竜一高の坂下にあった浪川商店の具材が殆ど無い焼きそば（通称ゴムそばと呼んでいた。）を食べることだった。「空腹は最高の調味料」とはよく言ったもので二郎ラーメンのように貪り食った。

あと数年で古希を迎えるが、忘れかけた空手への情熱とブルース・リーへの憧憬を思い起こしながら、細々と町道場に通っている。家に帰って妻が作ったソース焼きそばを食べながら「少し、味薄くねえが？」と聞くと、「考えるな、感じろ！」と妻が言ったような気がした。

「出会い」は奇跡か必然か

高28回
石井美知夫

このたび執筆依頼を受け、果たして私で良いものか思案したものの、約半世紀前の遠い記憶を辿るうちに当時の出来事を思い出し、今思う事へと書き連ねることにしました。

体育館の片隅、存在を知る生徒がどれほどいたのか「無線部」は地味ながら活動していました。年に一度合宿としてコンテストに参加、夜通し世界に向けて電波を飛ばし交信記録を競っていたのを思い出します。そうは言っても常時すべての部員が交信していたわけではなく、眠気覚ましに夜中に体育館でバスケットをして怒られた記憶は鮮明に残っており、今では良き思い出となっています。

残念だったのは三年時、野球部の甲子園出場が決まり、絶対応援にと日程を確認した際、当部の校外合宿と重なっていたことでした。それまで予選全試合を球場で応援してきただけに、忘れられない思い出になっています。

そんな部活も友人の誘いから始まっていますし、高校時代の諸先生方の言葉から、私は生き方について少なからず影響を受けています。また我が子の成長に伴い、小学校からPTA役員として学校に関わり、高校や県PTA会長など足かけ二十五年ほど務めてきましたが、そこでは教職員として働く多くの同窓生との出会いがあり、人づくりの根幹に関わっておられる姿に触れることは大変嬉しく、また心強く感じたものです。保護者として文科省や県の教育に関わる会議などに出席する機会を得たのも、幾多の出会いを重ねる中での何かのご縁であったように思います。様々な出会いを通して私が思うに、その時偶然の出会いと思ったことも、振り返ればそこに向けて無意識のうちに備えていたのではないでしょうか。「出会い」は日頃の行動が、それを呼び寄せるのかもしれません。

在校生の皆さんには、これから多くの良き出会いがありますことを、また竜ヶ崎一高の益々のご発展を心から祈念しております。

竜一高と音楽

高28回
宮川（岡野）真澄

先日、NHKみんなの歌で『遠い世界に』が流れた。歌詞の「…だけどボク達若者がいる…」を聞き、竜一高時代、そして所属していた音楽部を思い出した。自分達が『遠い世界に』を歌っていたあの頃、自分達は若者だった。50年も前の若者だった自分が、心の中に今でもいる。

『遠い世界に』は音楽部での愛唱歌だった。ことあるごとに歌われた歌の中の一曲だ。音楽部の活動は、合唱曲の混声合唱や、その頃流行り始めたフォークソングを取り入れた曲の合唱、グループに分かれての歌などが主な活動だった。

大きな古時計、小さい秋みつけた、竹田の子守歌、翼をください、等々、なつかしい曲だが今でも歌える。部員はその時々、増減したが、合唱コンクールに出場したり、体育館での文化部発表会でも曲の披露をした。文化祭でのコンサートは、当時新設された特別教室の音楽室で行った。それまで練習していた古い講堂とのあまりの違いに驚いたものだ。どの部もそうだったと思うが、部活動は部員の自主性にかなりまかされ、自由と責任、バランス良く、竜一そのものだったと思う。

また、音楽と言えば校歌。毎日聞いた硬式野球部の歌う校歌。応援団と一緒に歌った校歌、応援歌、闘魂こめて。とりわけ高三の時に甲子園で

音楽部　茨城県合唱祭（1975年7月）

歌ったことは人生の輝くきら星となっている。甲子園に連れて行ってくれた野球部には感謝しかない。

　最後に、音楽と言えるのか？の話。高三の時のクラスの教室後ろに、特大のジュリーのポスターが貼ってあった。貼ることが許されるぐらいのおおらかさの中で、数々の行事も、日々の授業も、大変だった試験も、皆で助け合い、協力し合った同級生。

　そう、ボク達若者が、確かにそこにいた！

人生のターニングポイント！

高43回
野友　宏則

「母校の想い出」の執筆依頼をいただき、原稿を前に懐かしき当時の記憶を呼び起こしています。竜ヶ崎一高を卒業して早30年以上が過ぎました。月日が経つのは本当に早いものだと痛感しています。

　私が竜ヶ崎一高で過ごした3年間は、まさに人生のターニングポイントであり、今の自分の礎を築いた3年間です。忘れもしない高校2年生の夏の日。放課後の教室に一人残っていた私に、当時の陸上競技部の先生が「陸上競技部に入らないか？」と声をかけてくれました。その時の情景は今でも鮮明に覚えており、この一言がその後の私の人生の扉を開けてくれました。

　陸上競技を始めた私は、自分の能力が活かせる種目にも出会い、恩師の指導のもと、たくさんの素晴らしい経験をさせていただきました。小さい頃から、将来は教員を希望していたこともあり、卒業後は大学に進んで陸上競技を続け、そして高校の教員となり、現在に至っています。

　人生の転機となった「出会い」への感謝はもちろん、充実した日々を与えてくれた高校の部活動、そして、陸上競技部の恩師をはじめ、在学中にお世話になった先生方、先輩・後輩、仲間と出会えたことに本当に感謝しています。

　当時の学校生活を振り返ってみますと、私の過ごした高校時代は「古き良き時代」でした。当時の竜ヶ崎一高は創立以来の「文武両道」という校是のもと、生徒と教員が互いに信頼を築き、授業も部活も学校生活もすべてが活気に溢れていたように思います。私にとって3年時に在籍したクラスも良い想い出です。クラス一丸となって取り組んだ学校行事をはじめ、互いに励まし、協力し合いながら頑張った受験勉強、級友と過ごした日常が本当に楽しく、素晴らしい時間であり、忘れることのない素敵な想い出です。

　それともう一つ、私は在学中に特別な経験もさせていただきました。入学式や記念式典等の際に校旗を持って入退場する旗手を務めたことです。現在でも毎年厳粛に行われている伝統ある役目を務めたことは今でも誇りです。2人の子どもも竜ヶ崎一高でお世話になりました。数年前、入学式に出席するために久しぶりに訪れた学び舎は新しい校舎となっていましたが、あちらこちらに昔の面影を残し、白幡台を流れる空気はノスタルジーを感じるものでした。

　人生のターニングポイントとなった高校時代。今でも竜ヶ崎一高の前を通ると当時の記憶が蘇ります。六十余の石段の上にたたずむ母校のますますのご発展と、在校生・卒業生の皆様のご活躍を祈念し、末筆ではございますが結びとさせていただきます。

Make you smile

高58回
長塚（目黒）惟

　懐かしい名前がスマホの画面に表示される。いっきに高校時代にタイムスリップする。当時どの先生よりも濃い時間を過ごした先生。そう、文化祭実行委員会（生徒会）のトップに君臨していたあのお方だ。私は文化祭実行委員長だったので、先生からの連絡はこの会報の依頼だったわけだけれども、久しぶりに近況を報告し合い、数分の楽しい会話を楽しんだ。本当は断りたい…でも絶対に断ることのできない存在…というわけで今原稿に向かっている。

　そんな当時の先生の年齢に追いついて（追い越して？）しまったことが不思議で仕方ない。しかし、話すとやはり先生と生徒という懐かしい関係に戻れるのだからこれもまた不思議な感覚である。当時子育て真っ最中だった先生は、家庭以上に生徒会に時間を費やしてくれていた。自分のパートナーが今そんな状態だったら⁉それを許してくれていた奥様には頭が上がらない。そんな私も今では家庭を持ち子育て真っ最中だ。子どもの学校や習い事が私の時間の大半を占めていて、自分の仕事やましてや自分の時間なんてものは二の次の目まぐるしい毎日を送っている。当時生徒会室の奥に座ってみんなを動かしていた私は、今では家庭を回しているのだ。あの頃こんな未来は想像していなかった。

　思い出すと溢れてくる思い出はどれも素敵なものばかりでいつだって私を幸せにしてくれる。急だった坂道、放課後の教室、みんなで悩んだ生徒会室。何もかもが懐かしい。あんなに輝いていた時間には

文化祭のテーマ「Make you smile」

もう二度と戻ることはできない。けれどもあの時間が今の私を作り、これからも支えてくれる。

最後に、このような機会をくれた岩﨑先生に感謝するとともに、白幡同窓生皆さまの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

心機一転

高58回
嶋村　拓也

私は昨年度まで千葉県の公立高校で保健体育科の教員として勤務しておりました。日々、目の前の仕事に没頭し、部活動指導に熱中すること十四年、多くの素晴らしい出会いに恵まれ、充実した教員生活を過ごすことができました。また、その過程で自分自身にも家族ができ、今後の人生の時間を、どのような環境で過ごすべきかについて考えるようになりました。その結果、茨城県に帰る決断をし、新天地での教員生活がスタートしたところです。そんな折り、「白幡」の原稿依頼のお話を頂き、これも何かのご縁だと感じ、恐縮ではありますが、お受けすることにしました。

高校時代の記憶で、まず思い出されるのは、バスケットボール部での活動です。山田健一先生ご指導の下、挨拶や礼儀といった基本的な心構えから、バスケットボールの楽しさや厳しさを学びました。インターバル走やエンドレスランといった走り込みは特に辛かったですが、合宿や遠征、大会、日々の練習一つ一つを仲間と乗り越えることで、心身ともに成長することができました。

日常生活では、坂道の多い自転車通学五十分、教室のベランダでの昼食、土日の部活終わりの道とん堀、沖縄修学旅行での台風直撃、大学受験に向けて自習した飛龍館など、様々な場面が思い出されます。楽しいことも苦しいこともたくさんありましたが、その全てが大切な思い出となり、人生を支えてくれています。

この原稿を書く上で、高校時代の出来事や仲間、恩師のことを思い出し、改めて教職という仕事の魅力を感じました。教師として生徒の青春の一ページを共有できる幸せと、その責任の重さを再認識しました。今後はより一層、目の前の生徒に真摯に向き合い、故郷である茨城県に少しでも恩返しができるよう努力していきます。

今を生き抜く糧

高58回
舘　　大祐

友人を介し「白幡」への寄稿依頼を受け、高校三年間を思い返すと野球漬けの毎日でした。入学するまでの私は甲子園でプレーする球児達がどれだけの努力や苦労、厳しい練習を乗り越えて辿り着いていることなんて知ることもありませんでした。これは入学前、春休みの練習で知ることとなりました。先輩方が遠征先から戻り、全体での初練習で感じたあのピリピリ感は今となっては殺気だと感じています。先輩方の努力や苦労、練習量を目の当たりにし、私自身の考えの甘さに気づき、そんな甲子園を目指す先輩方の背中を追いかけ、必死に声を出しながら練習に取り組んだ一年生の夏。

三年生が引退してしまい、夏休みに入ると地獄の練習。練習。全体の練習量で言うならば、高校三年間で一つ上の先輩の代が一番練習したと思う。竜ヶ崎一高では、夏の県大会前には必ず毎年、合宿が行われることとなっていますが、高校二年の時はGW明けから毎週末（金土日）が合宿になり、心身ともにボロボロになり追い込まれていったの覚えています。夏の県大会前の合宿に至るまでこの合宿は続きました。高校二年時は練習が休みとなったのは一年間で七日間はなかったと笑い話として仲間と今でも盛り上がっています。

最上級生となると、私自身のことだけでなく、チームのことも考えなければならない立場になりましたがチームとしても個人としても結果が出ず、当時の監督でいらした宮本正和先生に厳しくも温かいご指導をたくさん頂きました。当時はなにくそと思い、必死に取り組むのはいいですが、それも裏目に出てさらに温かいご指導をたくさん頂きました。

高校三年間で結果を出す事はできませんでしたが、この三年間で間違いなく精神的に強くなれたこと、目標に向かってひたむきに努力すること、言葉では言い表せないたくさんのことを学ばせて頂きました。この三年間がなければ今の私はありません。

最後になりますが、宮本正和先生や当時の部長でいらした大野雅彦先生をはじめとする多くの先生方に感謝するとともに、竜ヶ崎一高の益々の発展をお祈り申し上げまして結びとさせて頂きます。

私の愛しい灰色の高校生活

高68回
毛塚　航大

7月の半ば、高校時代の恩師である矢口先生から白幡寄稿のご連絡をいただいた。非常にありがたいのだが、特に部活にも入らず毎日をのうのうと過ごしていた私の灰色の高校生活に取り立てて書くことなどあるのだろうか…と筆を取った今になって不安になってきた。

高校時代の思い出といえば3年連続で門井先生に担任していただいたことは今でも忘れない。いつも優しく、時に

は涙を流して叱ってくれた門井先生のご指導には今でも感謝が絶えない。他にも3年間我々を学年主任として見守ってくださった菅原先生、3学年に進級した際に帰宅部を呼び集め、もう本当に受験が始まるんだぞ！と叱咤激励してくださったことを今でもよく覚えている。その後ほどなくしてまさかスタディファイトクラブZという名の1代限りしか存在しない勉強する部活に入ることになろうとは思ってもいなかった。

私は東大や京大を目指せるような人間ではなかったが、そこで高い志を持った友人と出会えたことは私の人生のかけがえのない財産である。今でも誰よりも尊敬する友人である田保くんらとは時折交流をさせてもらっている。

また、68回生といえば2学年時のマレーシア修学旅行だろう。聞けば後にも先にもマレーシアに修学旅行に行った代はいないとのことで、私が大学時代に勝手に開いた受験相談会では何代も後の後輩たちから「マレーシアの世代なんですか!?」と驚かれたものである。私にとっては初めての海外であり、学ぶことも多く、そして刺激も疲労も多い盛りだくさんの修学旅行であった。帰りの空港で級友の海老原くんとは「二度と海外になど行かない、俺たちは日本から離れないぞ！」などふざけた誓いを立てたものだが、何の因果かその後大学生になってから私はフランスに、彼はドイツに留学することになったのも不思議な縁のように思われる。

こうして振り返ってみると部活に入ってもいなかった私の灰色だと思われていた高校生活ですから、多くの恩師や多くの恩師や級友に恵まれた色鮮やかな学校生活だったことに驚きと感動を覚える。そのような素晴らしい母校に通えたこと、そしてその縁が今も続いていることに心から感謝したい。

先生方からの受験応援メッセージ

母校と私の人生

人生意気に感じては

高33回
川村　始子

思いもかけず過日、白幡同窓会事務局より原稿依頼を賜りました。光栄の限りでございます。テーマは「母校と私の人生」。結論から申し上げますと、母校竜一を抜きにして私の人生は考えられません。

在校時の思い出といえば野球応援です。高校二年生の時は、開校三年目の明野高校と決勝で対戦し惜敗しましたが、帰校後、持丸修一監督から応援団へ感謝の言葉を頂き、胸が熱くなった事は今でも忘れておりません。後日談になりますが、この時の悔しさは、平成二年に甲子園で大野高校に快勝し、アルプススタンドで校歌を気持ちよく歌って晴らすことができました。

教育実習も母校でお世話になりました。実習終了の日、後輩達から頂いた教員採用試験のお守りのお陰で合格することができました。初任校にも竜一の先輩方は多くいらっしゃり、公私ともに支えて頂きました。中でも、同姓で同じ教科の大先輩からは、人として誠実に生きることの大事さを学んだ気がします。その後も高校で教職に就いた同級生や先輩方にはたくさん手を差し伸べて頂きました。感謝してもしきれません。

その中でも一番は、令和二年度に校長として母校に勤務させて頂いた時です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入学式終了直後から6月中旬までの休校とその後の感染症対策、コロナ禍の中での創立百二十周年記念式典、開校間もない附属中学校の教育課程の実施、高校と附属中学校の募集活動と課題は山積していました。しかし、当時の龍ケ崎市長中山一生様をはじめとした市当局の皆様、染谷信洋委員長をはじめ創立百二十周年記念事業実行委員の皆様、白幡同窓会の皆様、市町村教育委員会や中学校にいらっしゃる卒業生のお陰等を持ちまして、何とか職務を全うすることができました。またこの年度は、文部科学省から、たくましい科学系人材の育成や先進的なＩＣＴ教育実践により「優秀教職員組織」の表彰を受け、学校全体の教育実践が高く評価されました。

令和五年三月、定年退職を致しました。在職中、様々な勤務を経験させて頂きましたが、そのスタートにあたり、いつも頭をよぎるのが、応援歌三番「人生意気に感じては、そもわが前に敵やある」のフレーズです。自分を信じて任せてくれた人の気持ちを思い、自分の立場における最善の選択をし、事を成し遂げようとする気概、意気込みに感じ入り、行動するのが人生である、と勝手に解釈しています。困難に見舞われた時も、心の中で歌っています。今や応援歌三番は、母校の応援歌を超えて、自分の人生の応援歌となっています。

現在、縁あって地元牛久市教育委員会に勤めております。近隣市町村の教育長に竜一出身の方も多く、市役所でも多くの同窓に助けて頂いております。これからも恩送りとして、児童生徒のために、自分の持てる力を尽くしたいと思っております。

（牛久市教育委員会教育長）

トピック①

持丸修一監督講演会「持丸監督　母校への熱い思いを語る」

白幡同窓生による同窓生対象の講演会を実施することになりました。

今年度の講演会は、高校19回生の現在専修大学松戸高等学校野球部監督の持丸修一氏にお願いいたしました。

持丸監督は昭和51年に竜ヶ崎第一高等学校野球部監督に就任、その後、藤代高等学校、常総学院高等学校、専修大学松戸高等学校の野球部監督を歴任して4校すべての高校を甲子園に導いた全国でも数名しかいない名将です。

そんな持丸監督ですが基本は竜一にあるということです。持丸監督の竜一への熱い思いを聴けるのではないかと思います。

主　催　白幡同窓会
開催日　令和7年2月22日㈯
会　場　大昭ホール龍ケ崎（龍ケ崎市文化会館）小ホール
開場　13時
開演　14時
（講演時間60分程度）
募集人数　100名
（事前申し込み、先着順）
申込方法
QRコードまたはURLから申し込んでください。
電話による申し込みはお受けできません。

https://forms.gle/jJC636xH2tchk2pd8

募集期間
令和7年1月5日㈰午前10時から2月15日㈯午後3時まで

トピック②

「石引まさのり」写真展開催

今年、龍ケ崎市市制七十周年、しかも辰（龍）年。毎年、龍ケ崎市撞舞保存会・龍ケ崎市共催で開催されている龍ケ崎撞舞の宣伝用ポスター用の写真撮影を依頼されている写真家石引規督（高25回卒）氏の「龍ケ崎撞舞と日本の柱祭」の写真展が七月十六日（火）～二十八日（日）サプラスクエア一階（イトーヨーカドー）で開催されました。今回の写真展は地元龍ケ崎の撞舞と全国各地で行われた7か所のつく舞の写真を展示しました。

つく舞というのは柱や梯子の上で舞う神事の行事と言われており、類型のつく舞が全国にも分布している事が分かり、実際に観たいとの思いから秋田県天王町の「くも舞」、千葉県野田市の「津久舞」、多古町の「しいかご舞」、旭市の「エンヤーホー」、神奈川県伊勢原市の「神木（しぎ）登り」、愛媛県八幡浜市の「川奈津松神事」、長崎県長崎市の「竹ん芸」等を撮影したそうです。

因みに龍ケ崎の撞舞とは国選択県指定無形民俗文化財で雨乞いや豊作疫病除けの願いが込められ四百五十年以上の歴史があると言われています。アマガエルの装束に身を包んだ舞男が高さ十四mの柱の上で逆立ちしたり四方に弓矢を放ったりと妙技を繰り広げたりするものです。

文化庁によれば今後日本の祭りの四割が消滅の危機にあるそうです。

石引氏のコメント

どうしたら「撞舞」が次の世代まで継承されていくのか？と考えると担い手や資金の問題もありますが、一番大切なのは「撞舞」に興味や関心を抱く事。特に子供たちが撞舞に興味を持つ事だと思います。将来は、龍ケ崎市の子供たちと野田市の子供たちがつく舞を通した交流を行い「つく舞こどもサミット」が実現したら素晴らしいと思っています。

石引氏の主な写真展

2011年　那覇市民ギャラリー写真展
2015年　四谷ポートレートギャラリー写真展
2018年　FCCJ日本外国特派員協会写真展
沖縄県立美術館写真展

トピック③

「藤崎翔講演会」が開催されました

令和6年2月11日に龍ケ崎市文化講演会が開催され、第34回横溝正史ミステリ大賞受賞の藤崎翔氏（高56回卒）が「文学とお笑い」をテーマに講演されました。この講演会の主催は龍ケ崎市読書会連合会、龍ケ崎市教育委員会、龍ケ崎市立中央図書館で、大昭ホール龍ケ崎の大ホールで行われました。

会場には事前申し込みをした多くの老若男女が集まり、笑いあり涙ありの講演を心の底から楽しみました。

プロフィール

竜ケ崎第一高校卒業後、6年間お笑い芸人として活動。2014年に長編ミステリ

『神様の裏の顔』で第34回横溝正史ミステリ大賞を受賞し小説家デビュー。他の著書に『逆転美人』『お隣さんが殺し屋さん』『モノマネ芸人、死体を埋める』などの他、ドラマ化された『おしい刑事』シリーズなど。

講演者コメント

このたびは、といってもだいぶ前ですが、大昭ホール龍ケ崎で講演をさせていただきました。

関係者の皆様、足を運んでくださった皆様、誠にありがとうございました。

あの時発売直後だった『お梅は呪いたい』も、おかげ様で驚異的大ヒット……というほどではないけど、それなりにヒットし、続編も決まって現在鋭意執筆中でございます。

これもひとえに皆様のおかげでございます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

サイン本をプレゼント

横溝正史ミステリ大賞受賞作の『神様の裏の顔』と最新作の『お梅は呪いたい』の2冊をセットで5名様に贈呈します。

応募方法

令和7年2月末日までに、下記のQRコードまたは、URLから応募してください。

抽選結果は令和7年3月末日に同窓会HPで発表する予定です。

応募用フォームのURL
https://forms.gle/zzND77GueacdqGM28

トピック④

同窓会会員名簿の発行

「白幡同窓会会員名簿」は、平成2年の同窓会総会で5年ごとに発行することが決定されました。今回で7回目となり、令和7年12月の発行を予定しています。

この会員名簿は、平成27年3月の卒業回より記載事項をクラスごとの五十音順記載に変更しました。また、各卒業回の幹事一覧を記載しています。

母校への郷愁を誘い、会員相互の架け橋となる同窓会名簿を作成するに当たり、個人情報の管理に十分配慮しながら、できる限り正確な情報を把握することに努めてまいります。

今回の名簿発行にあたり、編集委託しました株式会社サラトから同窓会会員の皆様には、令和7年3月以降ご案内文書等が送付されることになります。

（2020年発行）

名簿発行に関しまして、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

白龍祭委員会

今年も焼き餅屋を出店

去る6月1日（土）、白龍祭が一般公開されました。天候にも恵まれ、多くの皆様にご来場いただく中、今年も同窓会で焼き餅屋を出店させていただきました。

この企画は当初、PTAでついた餅を販売する形で実施されておりましたが、時代を経て、同窓会の企画として受け継がれました。新型コロナ感染症が落ち着きを見せた昨年からは、市販の餅を焼いて販売する方法に変更させていただき、今年で2年目になります。

当日は、同窓会役員、取手市役所、龍ケ崎市役所の皆様をはじめとする同窓会の皆様

のご協力をいただき、１１０個用意した餅をほぼ完売することができました。心を込めて、磯辺巻ときな粉餅をご用意させていただきましたが、ご購入された皆様には、お味の方はいかがでしたでしょうか。来年も出店を計画しておりますので、是非、参加して餅を焼いて高校時代を思い出してみてはいかがでしょうか。

　このような機会を与えていただいた竜ヶ崎一高の先生方、用具をお貸しいただいた龍ケ崎市社会福祉協議会の皆様、美味しい餅を提供していただいた足立製菓様、その他、様々なご協力をいただきました皆様に感謝申し上げる次第です。ありがとうございました。

100年前の同窓会名簿

　大正13年12月発行の名簿に掲載された同窓生の親族の方から名簿が寄贈されました。

　この同窓会会員名簿には、明治38年卒の第1回生から大正13年卒の第20回生までが掲載されています。

白幡同窓会ホームページもご覧ください

URL：http://www.shirahata.sakura.ne.jp

ＰＣでのアクセス時のイメージです。
スマホでのアクセス時には異なるイメージになります。

トップページ　お問い合わせ

ホームページ運営委員会

講堂に思う
ー太田第一高等学校講堂見学記ー

櫻井　篤美（高29回）

竜ヶ崎一高に入学した4月、吹奏楽に興味を持った私は吹奏楽部が活動の拠点としていた講堂を訪ねた。それは鉄筋4階建ての教室棟（現在の棟の一世代前、昭和45年竣工）と野球部グラウンドの間に位置し、まだ白幡台に残る幾棟かの木造建物の中でも特に威風堂々とした洋風建築で、重厚なオーラを放っていた。中に入ると高い天井、シャンデリアが下がっていたと思われる跡、演壇やその後方の門の様な造形など、随所に漆喰で作られた飾り造形があり、この学校の歴史を感じさせるものであった。しかしながら壁などは、ところどころで剥がれ落ち十分な補修もされていないような状態であったことを覚えている。

次の日からは放課後に通い、練習に明け暮れた。現在も趣味として続けている私の音楽活動は、ここから始まった。

令和6年10月20日、数名の同窓会員有志と太田第一高等学校資料館（旧県立太田中学校講堂）の一般公開に白幡同窓会の企画として訪れました。思い出深い竜ヶ崎一高の講堂は惜しくも昭和55年（1980年）に解体されてしまいましたが、同じ設計図で同時期に建てられた太田一高の講堂は国の重要文化財に指定され、大事に保存されています。講堂は資料館として利用されおり、「太田一高の伝統と業績を思い、古き良き歳月をしのび、それらを糧として新たな飛躍を期待したい」という趣旨のもと、開学当時からの明治・大正・昭和の歴史と学生生活の様子が重要な資料と共に展示されていました。講堂の内部は、資料展示部分と催し物が開催できる150席ほどスペースが作ってあります。この日の一般公開では少人数でのコンサートを聴くことができました。響きも程良く、音楽の小コンサートにはうってつけのホールのようです。

また、講堂の外周辺に桜の太い幹の古木が残っており、これを見ただけも歴史を感じざるを得ません。

今日は、懐かしい講堂に会うことができた。あの頃、毎日出入りしていた扉、楽器を保管していた部屋、椅子を並べた場所、自分が演奏していた位置からの眺め、などなど。私にとって一時を過ごした感慨深い場所に間違いない。

太田一高講堂内にて

染谷信洋先生を悼む

白幡同窓会長　小倉　培夫

染谷信洋先生の訃報に接し、ただ呆然とするばかりでした。共に過ごした日々が走馬灯のように脳裡を駆け巡っています。

先生は1944年神奈川県横須賀市に生まれました。生後3か月で茨城県に疎開し、龍ケ崎市に定住して今日に至っています。竜ヶ崎第一高等学校、東京教育大学（現筑波大学）文学部卒業後、県立高等学校（英語教諭）、国立教育会館筑波分館、県教育委員会、竜ヶ崎南高校・土浦第二高校・竜ヶ崎第一高校（学校長）でご勤務され、同時に茨城県高等学校野球連盟の会長にも就任、その後白幡同窓会長として2015年から2022年の8年間ご尽力いただきました。

温かいお人柄と強力なリーダーシップのもと創立百二十年記念を始め数々の事業を成功させ、さらなる飛躍を遂げました。長年のご貢献に深く敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。

ゴルフが趣味で著書「ゴルフ交遊録―わが忘れじのゴルフ」悪天候、体調不良、家族の白い目もなんのそのゴルフをこよなく愛する著者とその仲間たちのおかしくも心温まる交流を綴る痛快エッセイを出版しました。

先生とよく「不易流行」「竜ヶ崎一高の根底に流れる不易なもの」とは何かを話し合い自問する契機になりました。

時代が大きく変化しても変わらない本質的なもの、共に校歌の五番の最後の歌詞です。「心を鍛え　身を練りて　忠良有為の基たてん」心身一如のライフスタイルを構築し、善良で役立つ、有能な人材の基礎をつくるという本校の伝統のひとつであります。

温厚篤実なお人柄でしたが、芯には秘めたる強さを持った先生でした。

返す返すも残念ですが、心からお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。私たちは先生を忘れません。安らかにお眠りください。

染谷信洋先生を偲ぶ

元白幡同窓会長　齋藤　佳郎

染谷先生とこのように早くお別れしなければならないとは誠に残念です。先生は専門の英語はもちろん、文学の道に深く通じている方でした。また、何事にも誠心誠意、熱意をもって真剣に取り組まれる方でした。印象に残る先生のお姿は、教育庁指導課勤務時の早朝のお姿！遠方からの通勤にもかかわらず、席に着くなり、早速各職員の周辺をてきぱきと清掃開始です。先生のお人柄です。

先生にはいろいろと請うことがありましたが、その度に快諾していただきました。英国の某夫妻を中心に、英国、アメリカ合衆国、ドイツから集まる会に、先生にも参加をお願いしたことがあります。会の皆さんからは先生の誠実で明るい人柄に惹かれ、先生の参加のおかげで楽しい会であったと好評。先生の発案で、合間に二人でロンドンの夏目漱石記念館見学、貴重なチャンスを頂くことも多々ありました。感謝です。

持丸先生ご夫妻と共に、ストーン・ヘンジやゴルフの地、セント・アンドリュース、トマス・ハーディのコテージ等を訪れた後、「ドゥーリットル先生不思議な旅」で知られる「カースル・クーム」に宿泊。

英文学、日本文学に深い知識をもつ先生との旅は実に楽しく有意義なものでした。三度の英国の旅には、旅日記に短歌を数首寄せてくれました。想い出が刻まれる記録です。先生とのお付き合いが昨日のことのように蘇ってきます。

先生は、母校、竜一高にご勤務の折、野球はじめ、スポーツの振興に尽力されるとともに、進路指導においては、学校独自の教科指導書を作成し、生徒の「やる気」を奮起され、素晴らしい成果を収められました。誠実で、熱意、豊かな発想力に溢れる染谷先生の業績を改めて回想しつつ、先生のご冥福を心から御祈念いたします。

あの後ろ姿が　忘れられない

専修大学松戸高等学校
野球部監督　持丸　修一

指先に硬き冷たさ伝ひきぬ
凍る朝にチョーク握りて

染谷先生が「山上峻」として発表した歌集からです。冬の朝、教室で黒板に向かう先生の姿が偲ばれます。いつもメモと鉛筆を持ち歩いては「オレは歩き出しても立ち止まっても詩が生まれんだよ」と笑っておられましたね。先生からいただいたたくさんの詩集や紀行文などが私の書斎に残されました。

思い出は尽きません。齋藤佳郎先生とのイギリス旅行。旅先でキャリーバッグが壊れてしまいどうしようか、となった時に「これは亡き女房の形見なんだ」と羽田空港まで抱えて持ち帰ったのには驚きました。亡くなった奥様への愛情が深かったんですね。バッグを抱えた後ろ姿が今でも忘れられません。また、郷土愛が強く地元の龍ケ崎カントリーのメンバーになりたいとの願いも実現されました。当時私が乗っていた英国車でクラブまでご一緒しました。英国好きな先生は「いいデザインだねー」と助手席で目を細めておられました。

高野連会長として重責を担いながらも竜一野球部を陰に陽に支え続け、監督たちを励まし球場に足を運んでは選手たちを応援してくださいました。亡くなる1ヶ月程前に一度ご自宅に伺った際にはつらい体調を抑えながらも応対してくださいました。「ビールはやめられないよ」と玄関まで見送ってくださいました。その後の突然の訃報。悲しみは深いです。

最後まで龍ケ崎が大好きで、竜ヶ崎一高が大好きだった染谷信洋先生。

安らかにお休みください！

令和6年　卒業生（現役）の受験者数・合格者数・入学者数

	国公立大学					私立大学			国公立短大	私立短大	大学校	その他大学	専門学校各種学校
	前期	後期	中期・独自	推薦等	計	推薦等	一般	共通テスト利用					
受験	161	50	0	19	230	23	723	716	0	0	4	0	0
合格	83	20	0	8	111	21	324	457	0	0	2	0	0
入学	76	16	0	8	100	20	60	29	0	0	1	0	0

国公立大学	受験	合格	入学
北海道	3	1	1
岩手	2	1	1
東北	3	2	2
秋田	2	1	1
福島	4	2	
茨城	53	32	29
筑波	26	10	10
宇都宮	4	3	2
群馬	4		
埼玉	22	15	14
千葉	19	11	11
お茶の水女子	1		
電気通信	2	1	1
東京医科歯科	2	1	1
東京外国語	3		
東京学芸	5	1	1
東京芸術	1		
東京工業	1	1	1
東京農工	6	1	1
一橋	1	1	1
横浜国立	7	1	1
新潟	2	2	2
富山	1	1	1
金沢	3	2	2
信州	2	1	1
静岡	6	3	3
愛知教育	1	1	1
名古屋	1	1	1
京都	1		
大阪	1		
奈良教育	1		
奈良女子	1	1	1
和歌山	1	1	1
島根	2		
広島	1		
高知	1	1	
九州	1		
九州工業	1		
熊本	1	1	1
琉球	1	1	1
国立合計	200	101	93

公立大学	受験	合格	入学
旭川市立	1	1	
岩手県立	1		
福島県立医科	1		
秋田県立	1	1	
茨城県立医療	7	2	2
高崎経済	8		
東京都立	6	4	4
横浜市立	2	1	
福井県立	2		
静岡文化芸術	1	1	1
公立合計	30	10	7

大学校	受験	合格	入学
水産大学校	1		
職業能力開発総合大学校	1	1	
国立看護大学校	2	1	1
大学校計	4	2	1

私立大学	受験	合格	入学
酪農学園	1		
仙台	1	1	
常磐	5	5	1
流通経済	2	2	
白鴎	1	1	
国際医療福祉	4	2	1
東京福祉	1	1	
跡見学園女子	1	1	
東京国際	2	2	
獨協	17	12	
文教	26	14	3
目白	4	3	
江戸川	2	2	
川村学園女子	1	1	
神田外語	4	4	1
淑徳	1	1	
聖徳	4	4	
千葉工業	161	151	2
中央学院	3	3	
帝京平成	1	1	
麗澤	2	2	
和洋女子	1	1	1
千葉科学	2	2	
東京医療保健	1	1	
亜細亜	3	3	
青山学院	25	10	6
大妻女子	4	3	
学習院	36	11	3
北里	9	5	1
共立女子	9	9	2
杏林	9	6	
慶應義塾	5	2	2
工学院	3	2	
國學院	40	15	5
国士舘	8	3	
駒澤	21	10	1
実践女子	2	2	
芝浦工業	53	16	4
順天堂	16	12	4
上智	14	8	3
昭和女子	5	5	1
昭和薬科	1	1	
女子美術	1		
成蹊	16	4	
成城	14	6	1
専修	26	17	4
創価	1	1	
大東文化	9	9	
大正	10	7	1
拓殖	3	3	1
玉川	7	4	
多摩美術	1		
中央	70	22	5
津田塾	6	5	1
帝京	12	8	1
東海	19	13	1
東京家政	13	12	1
東京経済	1		
東京女子	5	4	
東京造形	5	1	
東京電機	102	54	6
東京農業	14	5	
東京薬科	2		
東京理科	82	28	6
東邦	18	12	2
東洋	97	46	2
二松学舎	4	3	
日本	89	62	6
日本獣医生命科学	3	2	
日本女子	16	6	
日本体育	1	1	
法政	87	31	6
星薬科	2	2	1
武蔵	28	19	2
東京都市	21	3	
武蔵野	6	6	
明治	49	16	5
明治学院	10	6	
明治薬科	2		
明星	2	2	1
立教	50	14	5
立正	9	7	1
早稲田	20	9	6
麻布	2	1	
神奈川	7	4	1
帝京科学	3	3	
豊田工業	1	1	
京都芸術	1	1	1
立命館	1	1	
宝塚	1		
岡山理科	1	1	1
福岡	1		
合計	1462	802	109

県立専門学校	受験	合格	入学
合計	0	0	0

専門学校	受験	合格	入学
合計	0	0	0

附属中学校

附属中も五年目を迎えました。中高一貫校として、年々特色ある教育内容となってきています。ここでは、今年度行われたキャリア教育プログラムについて触れたいと思います。

キャリア教育プログラム1

キャリア教育プログラムの一回目は「ダイバーシティ＆インクルージョンの最前線」と題して、中学二年生と三年生を対象に実施しました。

日本メナード株式会社の協力を得て、ＬＧＢＴＱの当事者の講師をお招きしました。目標として、異なるさまざまな属性の人材を迎え入れ、共存しながら、各自が持つ能力や考えを活かす組織が創造力、活性化をアップさせていることを理解すること、援助希求することの大切さを知り、今後の生き方の指針を得ることとしました。

授業の内容として「社会の中で、性別で分かれているものにはどのようなものがあ

るのだろうか」「性別で分けなくて良いものはあるだろうか」「どうして、社会は二つの性別で分かれているのだろうか」といった問いに対して、自らの考えと友達の考えを交流したり、講師の先生から見解を述べてもらったりしました。また、講師から「ダイバーシティ＆インクルージョンの最前線」について、紹介してもらいました。

授業を振り返った生徒の感想を以下に紹介します。「自分たちの世代や次の世代で性別にとらわれない自分らしさを出せる世の中をつくっていくことが大切だと考えた。」「体のつくりや昔からの考え方、イメージも大切だけど、『自分らしく』生きることが最も大切だと学びました」「自分が思っていた以上に性別の区別が社会の中であるのだなと感じた。講師の方の話や、最後に見た動画で、『自分は自分のままで良い、自分らしさを忘れずに生きる』ということが大切だということを学んだ。私も、周りの人に流されずに自分らしさを出して生きていきたい。」等、附属中生らしい、深い学びが見られました。

キャリア教育プログラム2

「リアルスーパードクター～医師を志した経緯と最前線の医療～」と題し、最前線で活躍する医師との対話から、生徒が今後の生き方・在り方について考えるキャリア教育ワークショップを実施しました。講師として、公益財団法人心臓血管研究所所長の及川裕二氏をお招きし、医療を志した経緯、手術の映像も交えながら豊富なエピソードを

伺いました。最先端の医療機器を用いたカテーテル治療の模擬体験やそのライブデモンストレーションの映像をご紹介いただく一方で、エピソードの中には生徒にとっても身近な内容も多く、医師という職業に親近感を持つことができたとの感想も多く寄せられました。

「より医師になりたい気持ちは高まり、医師になって自分の興味のままに楽しむまでは、受験勉強など真面目に取り組んでいきたい」「『自分じゃ無理・・・』なんて気持ちじゃなく何事もアタックしてみることが必要であることが分かったので、実践したい。今しかできないことを一生懸命取り組んで大人になってから悔いのないようにしたい。」「やりたいことを進めたいし続けたい。そういう人生を送れたらうれしい。だからやりたいことを見つけるために、いろいろな分野に挑戦したい。」

なぜ今自分は学んでいるのか、どうして学ばなければならないのかについて考えることができた貴重な機会となったようです。

（附属中教頭　遠藤　弘太郎）

部活動の主な成績
（令和6年4月～9月）

射撃部

昨年度は、藤田琴子（当時2年）が全国選抜大会（3月・広島県安芸太田町）でエアライフル女子において6位入賞を果たした。今年度の関東大会（6月・埼玉県長瀞町）では、前田照仁（3年）がビームピストル男子3位を獲得した。全国高校選手権大会（8月・広島県安芸太田町）では、藤田（3年）が3位に、ビームライフル男子団体（玉山・秋田・鴻巣）が6位に入賞した。昨年度末から関東・全国大会での入賞者が出ており、部内での競争意識も高まっている。来年度は関東・全国大会においてさらに上位入賞できるよう、精進を重ねていきたい。

最後になりますが、射撃部がこのように活動できるのは同窓会の皆様のご支援の賜物です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

（顧問　小野　雅央　高55回）

陸上競技部

今年度の陸上競技部の活動報告として、5月に開催された茨城県高等学校陸上競技選手権大会において、3年生相澤柊哉が400mハードルで優勝し、6月に関東高等学校陸上競技選手権大会に駒を進めることができました。その後、3年生が引退し新チームになった当初は部員も私も競技力に不安を感じていました。しかし、猛暑の中での夏季遠征合宿など、「継続は力なり」の精神で日々練習に取り組んだ結果、9月の地区新人大会を迎えると、部員の多くが自己ベストを更新し、次のステージへ進むことができました。茨城県高等学校新人陸上競技大会においては、2年中川九が自己ベストを大きく更新する走りで3000mSC第4位入賞を果たし、関東高等学校選抜新人陸上競技大会の出場権を獲得しました。

陸上競技は苦しくて単調な競技ではありますが、その苦しさを楽しさに変える強い心と、単調なことを続ける継続力をもって部員たちは取り組んでいます。そして、竜ヶ崎一高の素晴らしい環境の中でこうして活動ができるのも白幡同窓会の支援があってのことと心から感謝をしています。ありがとうございます。

（顧問　内田　昌美　高34回）

書道部

◎第五十八回高野山競書大会

今年度最初の公募展で二年生の海老原里帆さんが光明皇后の杜家立成雑書要略の臨書を出品。**金剛峯寺賞**を受賞。八月二日高野山で行われた表彰式に招待されました。

◎全高総文祭に八年連続出場

第五十八回の今年は岐阜県下呂市において開催。八月一日～三日、三年生の森下咲良さんが県代表として参加しました。出品作品は光明皇后の楽毅論。閉会式では審査結果が発表され、この作品は**特別賞**に入賞しました。昨年の山下未結さんに続いての受賞となり、十二月の優秀作品展示会にも出品される予定です。

◎第二十五回高校生国際美術展にて最高賞

世界芸術文化振興協会が主催するこの大会は厳選で知られておりますが、三年生の森下咲良さんが出品総数九七六六点の中、見事に最高賞の**キングズ・ファウンデーション賞**を受賞しました。作品は江戸時代の人で、幕末の三筆と言われた貫名菘翁（ぬきなすうおう）の左繍序という作品の臨書。作品は八月九日～二十日、六本木の国立新美術館に展示されました。それに先立ち八月六日には表彰式があり、書道部門からは森下さんが受賞者代表挨拶を行いました。また、今回の受賞について、後日取材を受け、九月十九日の朝日新聞に掲載されました。

なお、この書展での最高賞は、一昨年の安藤羽菜さんに続き二人目となりました。作品や審査員の作品批評動画は同展のホームページで公開されておりますので、関心のある方は**こうこうびで**検索してご覧下さい。

◎男子部員も大健闘

高校の書道部と言えば、そのほとんどを女生徒が占めているのですが、昨年度女子部員ばかりの中にたった一人入部してきた現二年生の倉持琉生君。その熱心さと集中力は素晴らしく、二月の全日本書き初め大展覧会で**日本武道館会長賞**、第四十回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会**テレビ朝日賞**、東京学芸大学主催の第四十八回学芸書道全国展では最高賞に次ぐ**東京学芸大学学長賞**を受賞。

受賞作はいずれも中国唐代、顔真卿の「自書告身」の臨書作品。一年間一つの古典と四つに組んで練り上げた技に磨きがかかっての受賞となりました。

以上、八月までの公募展における主な成果を報告させて頂きましたが、これから芸術の秋を迎え、発表の機会が続きます。一年生も高校・附属中ともに優秀な生徒が揃っており、これからの活躍を大いに期待しているところです

今後ともよろしくご指導ご支援のほどお願い申し上げます。

（顧問　大古　光雄）

令和6年度定通大会

定時制は4月に22人の新1年生を迎え、4学年で合計52人が在籍しています。定時制の1日は午後5時から、手作りで温かい給食を仲間と楽しむことで始まります。1日の日課は4時間授業が基本で、午後9時ごろには放課になります。教室は2階の4つを全日制と共用しています。

夏休み前までに様々な学校行事がありました。対面式、各種検診、白龍祭、スポーツテスト、定通大会とその練習、進路ガイダンス、保健講話、学力テスト（定期考査）などです。生徒と職員が一丸となって、日々の生活を考え、仲間を考え、将来を考え、学び、一歩一歩着実に歩んでいます。

6月の白龍祭では、生徒会を中心に企画を練り上げました。全員で係を分担してシフトを組み、射的・カードゲーム、輪投げなどの遊戯企画を準備しました。一般公開日には、小さなお子さんから年配の方々まで多数が来場しました。笑顔がはじける時間が多く、おもてなしをすることができたのではないかと思います。

また、同じ6月に全県の定時制・通信制高校が参加する球技大会「定通大会」がありました。今回はバスケットボール・卓球・バドミントンの3種目に参加しました。各種目、惜しくも優勝は逃しましたが、選手のみなさんは竜一定時制の代表として全力で試合に臨んでいました。チームやペアで一つのボールやシャトルを力の限り追う姿は、応援する仲間や職員の心にじんと来るものがありました。

最後に、定時制では、生徒にも職員にとっても安心・安全な居場所づくりのため、写真にあるような環境整備を進めています。

機会がありましたらお越しいただき、心も目も休めてください。お読みいただきましてありがとうございました。

（教頭　森田　正彦）

卓球部OB会お礼

＜卓球部OB会からの寄付金に御礼＞

昨年度、卓球部OB会から、多大なる寄付金を賜りまして厚く御礼を申し上げます。その寄付金の一部で、卓球フェンス、ネット等を購入させていただきました。また、残りの寄付金につきましては、今後も有効に活用していきたいと考えております。

現在卓球部は男子11名、女子4名、計15名で日々練習に励んでおります。これからも卓球部OBの皆様方の期待に応えられるよう精進してまいりたいと思います。今後ともOBの皆様方の応援をよろしくお願い申し上げます。

（顧問　寅谷　廣紀　高51回）

１　同窓会会報（第35号）発送総数　１５,９８８　部（旧職員を除く）
２　同窓会名簿（令和2年12月発行）掲載者数　２６,７２６　名
　・うち判明物故者数　５,６９５　名
　・うち住所不明者数　４,６０４　名
３　令和５年度「協力金」納入者数
　１,４６０　名　（納入率：９.１３%）

会報発行・発送について

毎年12月中に同窓会会員の皆様に発送しています会報「白幡」について、少し説明いたします。

龍ケ崎市内にある倉沢印刷（株）で会報は印刷された後、兵庫県に本社のあるサラト（株）に送られます。そして、12月下旬にメール便にて同窓生の皆様にお届けすることになっています。

サラト（株）は同窓会名簿の製作を受託契約している業者ですので、名簿発行に関してのお知らせ等が届くことがあります。その際には何卒ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

発送部数について

会報は住所が判明している会員の皆様に発送されています。会員の皆様の住所等については、５年ごとに発行されます同窓会名簿を製作する際に郵便物でその確認作業を行っています。

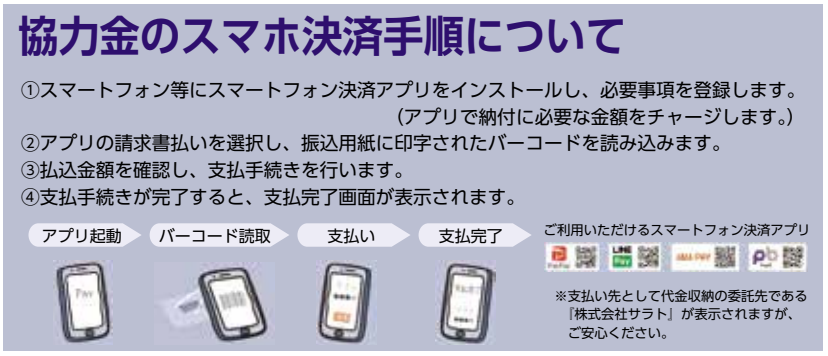
住所等の変更について

住所等の変更については同窓会ＨＰで受付していますので、ご連絡ください。

協力金の納入について

会報に同封しています「協力金振込のお願い」にご協力いただきますようお願いいたします。

令和５年度の協力金の納入率は10%に届きませんでした。同窓会としましては、会の目的を円滑に遂行するため原資となる協力金の納入率向上を最重要課題としてとらえ、約15%の納入率を目標にＰＲ活動を進めていますのでご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



編集後記

今回の表紙は竜一高の講堂（１９８０年解体）とその設計図（竜一高所蔵）および太田一高の講堂の写真です。その設計図を基に建てられた県内の四つの高校のうちで唯一現存するのは太田一高の講堂だけです。その講堂は国指定重要文化財旧茨城県立太田中学校講堂として大切に保存されています。当時の講堂を知る者にとってはタイムスリップしたような時間を楽しむことができます。

恩師を訪ねて

新企画としまして第35号から始まりました「恩師を訪ねて」のコーナーの第２回の恩師は富永道也先生です。当時の先生の姿を思い出しながら懐かしんだり、時代の移ろいなどに思いをはせた方もいらしたのではないでしょうか。

恩師の推薦

同窓生の皆様から「恩師」の推薦を募集しています。あの先生に会いたい、あの先生の今を知りたいなどリクエストがありましたら、同窓会ＨＰの「お問い合わせフォーム」にお願いします。

同窓会便り

会報記事のメインのひとつは各回の同窓会の開催を掲載する「同窓会便り」です。コロナ禍の影響で控えていた各同窓会の開催も徐々にできるようになりました。同窓会の開催報告ばかりでなく、開催予告も掲載できますのでその機会にはぜひ会報をご活用ください。

母校の想い出

各学年の学校生活を彷彿させる「母校の想い出」は、翌年の各招待学年（卒後10年、20年、35年、50年、60年）の同窓生の方に原稿を依頼しています。依頼文書が届いた際にはぜひ原稿執筆のご協力をよろしくお願いします。

ご意見ご要望

会報をこれまで以上に充実させていきたいと思いますので、同窓生の皆様から会報に関するご意見やご要望等をお待ちしています。

会報編集委員

服部　俊夫（高25回）
関口　広行（高26回）
山田　實（高26回）
倉持　正男（高27回）
篠塚　文男（高28回）
川口　浩己（高29回）
有川　保（高33回）
霜村　裕通（高33回）
磯山　佳美（高34回）
岩﨑　卓士（高37回）